

2016年12月期 第1四半期決算説明資料



2016年5月9日(月)
株式会社ワールドホールディングス
東証2部 (2429)



2016年の重点施策と取組状況

人材・教育ビジネス

採用力強化

応募者母集団の拡大⇒全事業部合同説明会

社員定着の促進

教育体制の拡充⇒キャリアアップ研修のプログラム策定

雇用創出

事業領域の拡大⇒新規領域への雇用チャンネルの多様化

外部連携

共同事業化促進⇒人材業とのアライアンスによる実践的対応

不動産ビジネス

デベロップメント関連

新築マンションの事業企画着手、宅地、事業用地の適正規模・配分

リノベーション関連

繁忙期(1月～3月)と仕入好調により計画超過で推移

情報通信ビジネス

優良店舗網の構築

不採算店舗の圧縮とホスピタリティの高い人材育成の実施

新規事業

新規事業を調査検討中

M&Aによる拡大戦略

M&A案件を精査検討中



I .2016年12月期 第1四半期決算概要

II .2016年12月期 業績予想

I . 2016年12月期 第1四半期決算概要



第1四半期サマリー



- 売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益は全て計画通り推移
- 特に利益面では通期予想に対する進捗率も25%を超え順調に推移
- 前年同期比での減少主要因は、不動産ビジネスにおける大型不動産売却による計上が前期1Qに集中したため減少しているが、通期予想における進捗は予定通り

単位：百万円、%

	2015/1Q 実績	2016/1Q 実績	前年同期比		通期予想※	通期予想に対する進捗率
			増減額	増減率		
売上高	31,212	22,726	△8,486	△27.2	100,111	22.7
営業利益	2,819	1,662	△1,157	△41.0	6,275	26.5
経常利益	2,803	1,637	△1,165	△41.6	6,153	26.6
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,895	1,015	△880	△46.5	3,814	26.6

※2016年2月3日発表



セグメント別売上高

- 人材・教育ビジネスは、売上高が伸長
- 不動産ビジネスは、前期の大型不動産売却分(土地分譲)が減少
- セグメント毎の繁忙トレンドを織り込んだ通期予想に対する進捗も予定通りに推移

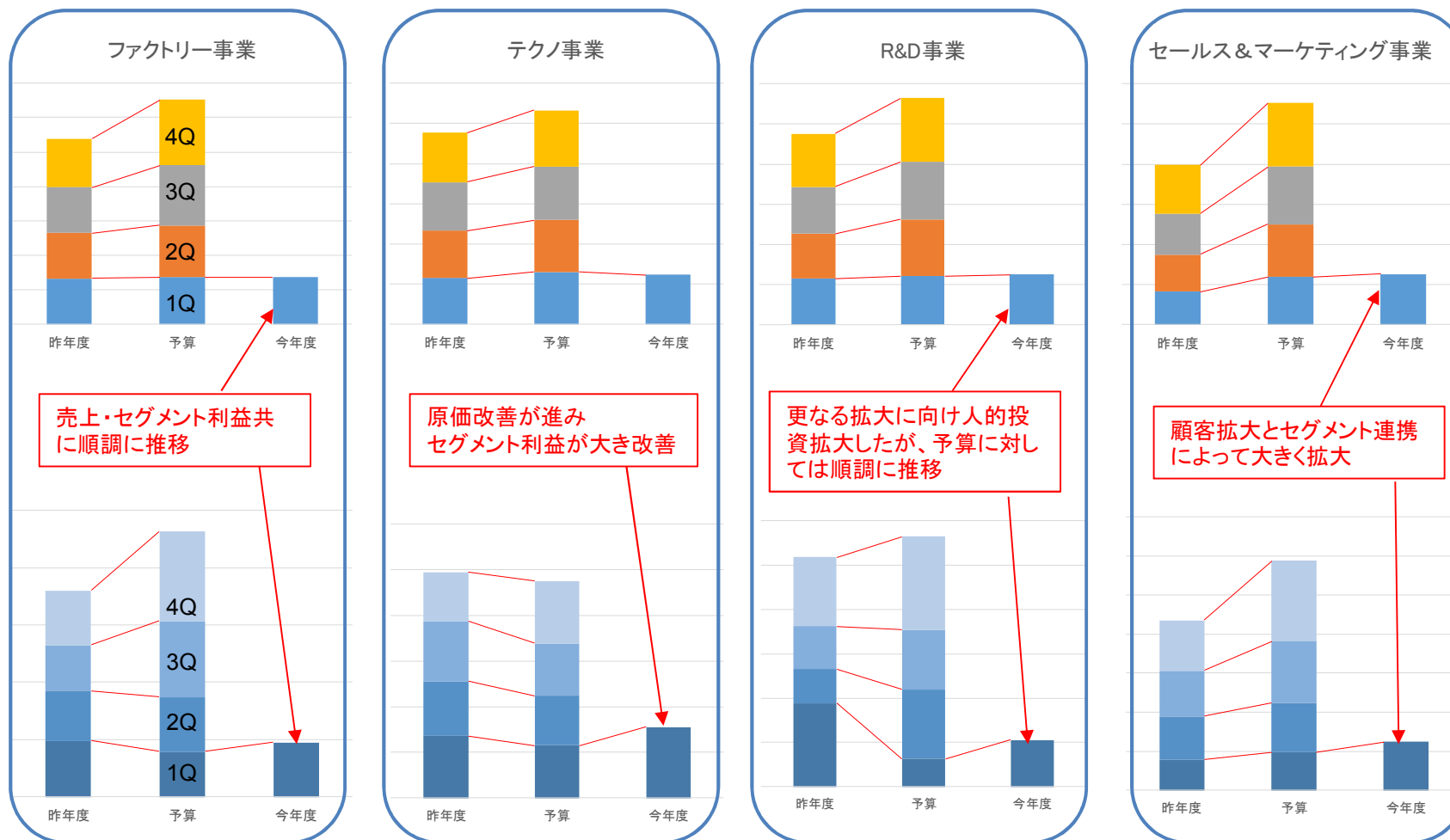
単位: 百万円、%			2015/1Q 実績	2016/1Q 実績	前年同期比		2016/4Q 通期予想 ※	通期予想に 対する 進捗率
					増減額	増減率		
人材・教育ビジネス	ファクトリー事業	売上高	6,649	6,825	176	2.7	32,571	21.0
		セグメント利益	490	476	△13	△2.8	2,316	20.6
		利益率	7.4%	7.0%	—	—	7.1%	—
	テクノ事業	売上高	2,290	2,462	171	7.5	10,699	23.0
		セグメント利益	271	311	40	15.0	952	32.7
		利益率	11.8%	12.7%	—	—	8.9%	—
	R & D 事業	売上高	1,151	1,248	97	8.4	5,650	22.1
		セグメント利益	188	105	△83	△44.3	565	18.6
		利益率	16.4%	8.4%	—	—	10.0%	—
	セールス&マーケティング事業	売上高	823	1,255	432	52.5	5,525	22.7
セグメント利益		39	62	23	59.0	296	20.9	
利益率		4.8%	5.0%	—	—	5.4%	—	
その他の事業	売上高	111	131	19	17.9	547	23.9	
	セグメント利益	3	5	1	30.4	26	19.2	
	利益率	3.6%	3.9%	—	—	4.8%	—	
不動産ビジネス	不動産事業	売上高	16,864	8,719	△8,145	△48.3	37,092	23.5
		セグメント利益	2,215	979	△1,235	△55.8	3,921	25.0
		利益率	13.1%	11.2%	—	—	10.6%	—
情報通信ビジネス	情報通信事業	売上高	3,320	2,082	△1,238	△37.3	8,056	25.8
		セグメント利益	△35	47	82	—	200	23.5
		利益率	—	2.3%	—	—	2.5%	—
合 計	売上高	31,212	22,726	△8,486	△27.2	100,111	22.7	
	消去又は全社	△353	△325	28	—	△2,003	—	
	営業利益	2,819	1,662	△1,157	△41.0	6,275	26.5	
	営業利益率	9.0%	7.3%	—	—	6.3%	—	

※2016年2月3日発表

人材教育ビジネス



主要人材セグメントの予算進捗については概ね予定通り、特にセグメント利益については30%増で順調に推移

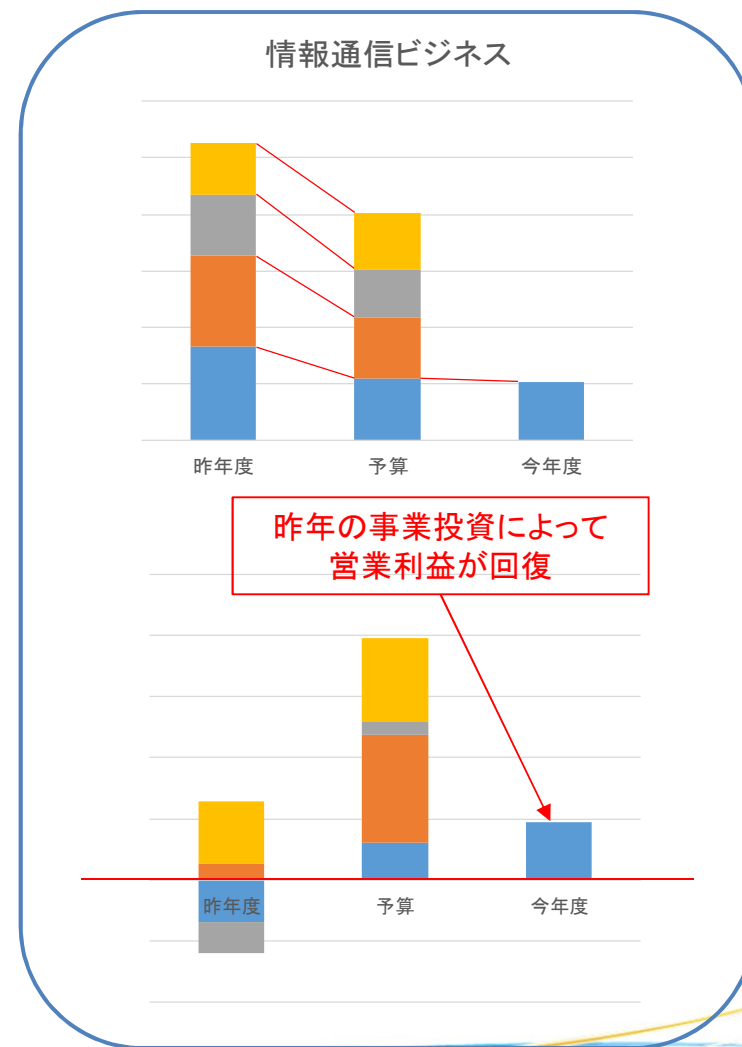
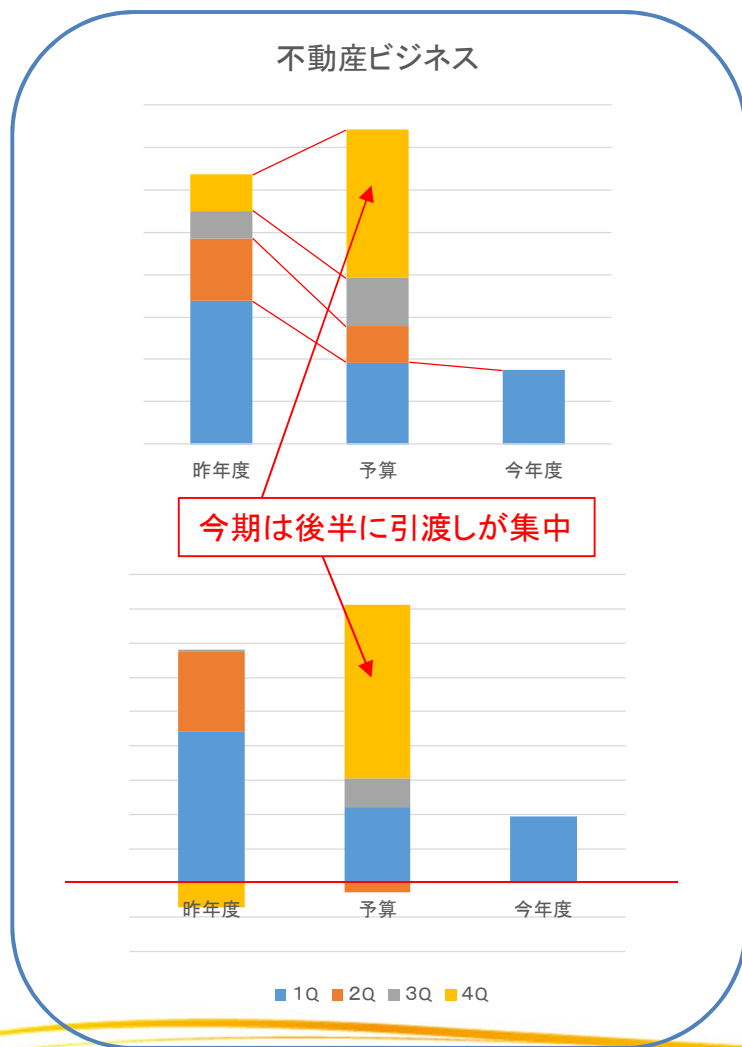


※上段:売上高 下段:セグメント利益

不動産ビジネス、情報通信ビジネス



不動産については後半に引渡しが集中させた予算となっているが概ね順調に推移
 情報通信ビジネスについては、昨年の事業投資によって利益が順調に回復

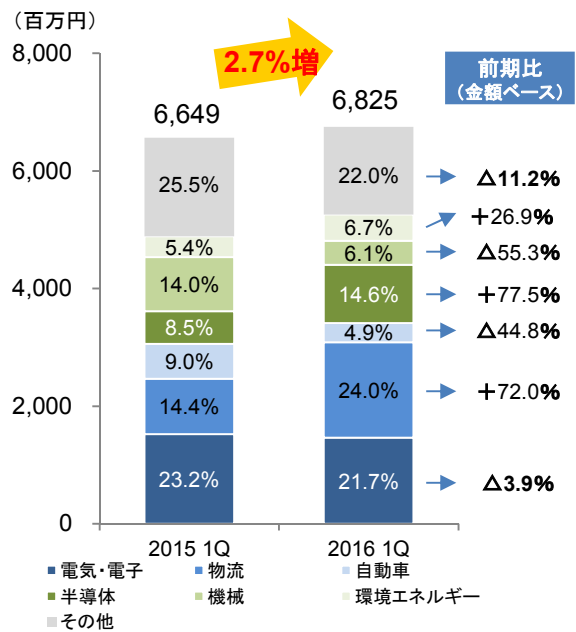


ファクトリー事業

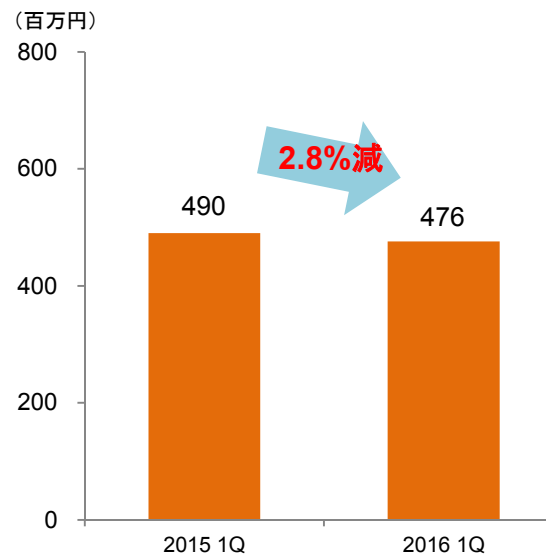
<分野別売上高・構成比と在籍数>

- スマートフォン関連の受注好調を受け半導体分野が好調
- 物流分野は大型受注の順調な立ち上げで売上高が伸長

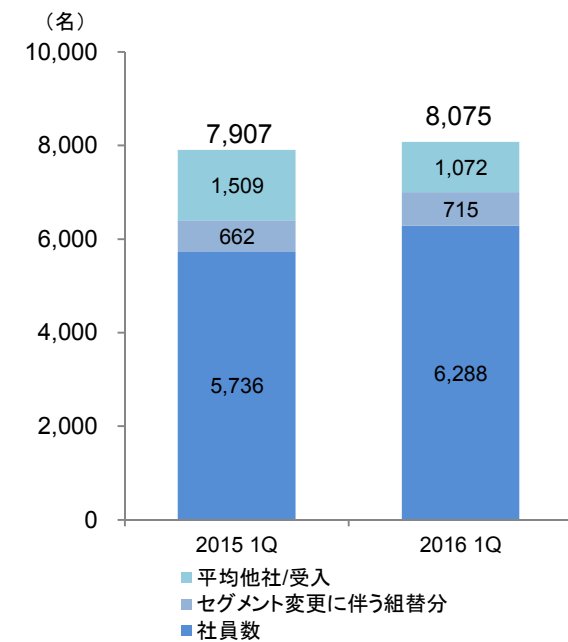
◆ 業種別売上高と売上高構成比(%)



◆ 営業利益



◆ 在籍数の推移(3ヶ月平均)



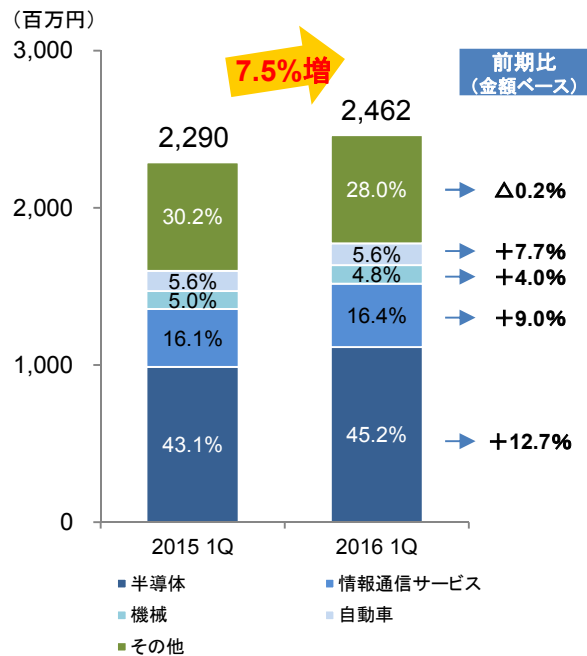
※在籍数は3か月平均 他社受入の外部人員を含む
※在籍数は現業社員のみ

テクノ事業

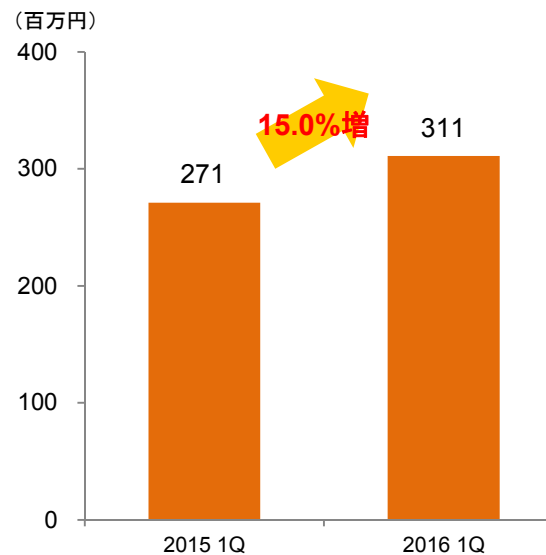
<分野別売上高・構成比と在籍数>

- 自社雇用以外の人材投入が必要となっている自動車、半導体、ソフト開発、建設関連を中心に堅調に推移
- 設計開発エンジニアは自動車、半導体、ソフトウェアが拡大
- 工場系エンジニアはスマートフォン関連の半導体を中心に大きく伸長

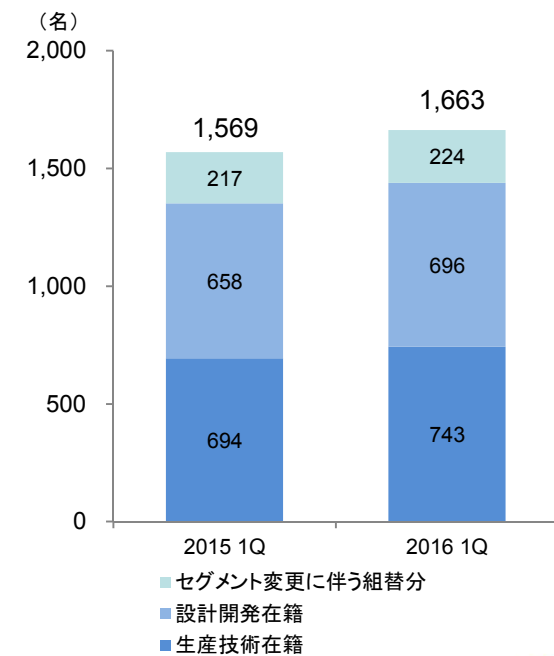
◆ 業種別売上高と売上高構成比(%)



◆ 営業利益



◆ 在籍数の推移(3ヶ月平均)



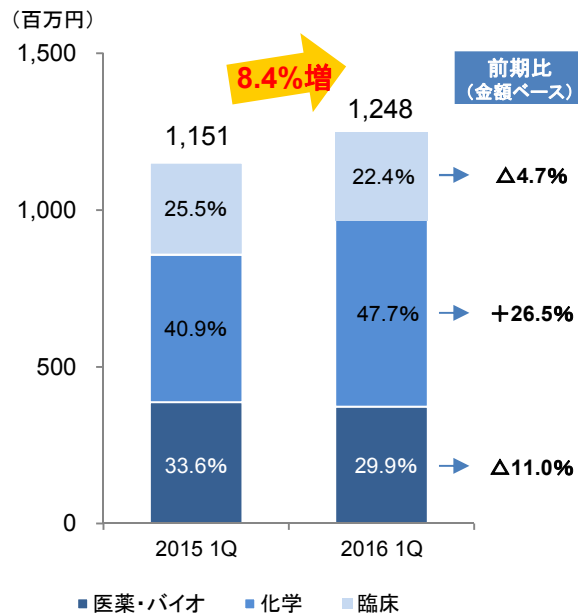
※在籍は3か月平均
 ※在籍数は現業社員のみの数字

R&D事業

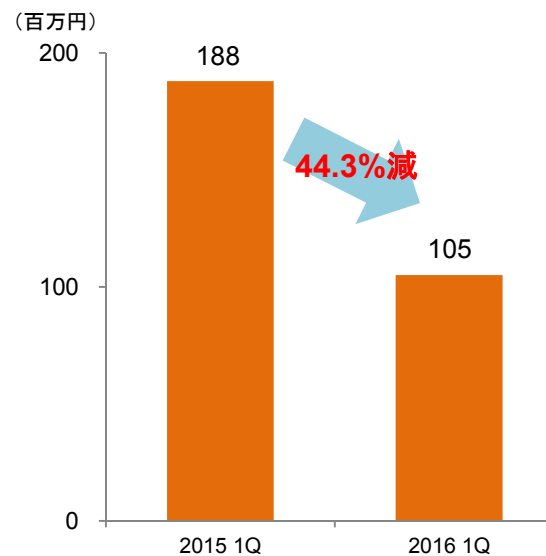
<分野別売上高・構成比と在籍数>

- 業績好調な製薬企業やジェネリック医薬品企業の研究投資を受けて順調に推移
- PV(安全性情報管理)は既存CRO企業との連携により、新規顧客獲得で大きく伸長

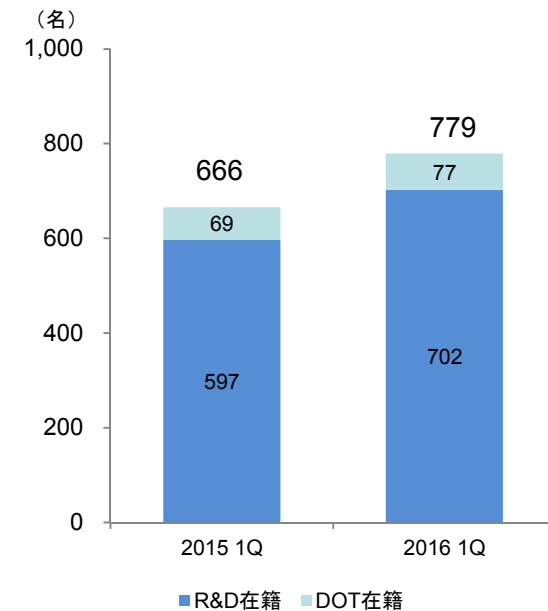
◆ 業種別売上高と売上高構成比(%)



◆ 営業利益



◆ 在籍数の推移(3ヶ月平均)



・在籍は3か月平均、在籍数は現業社員のみの数字

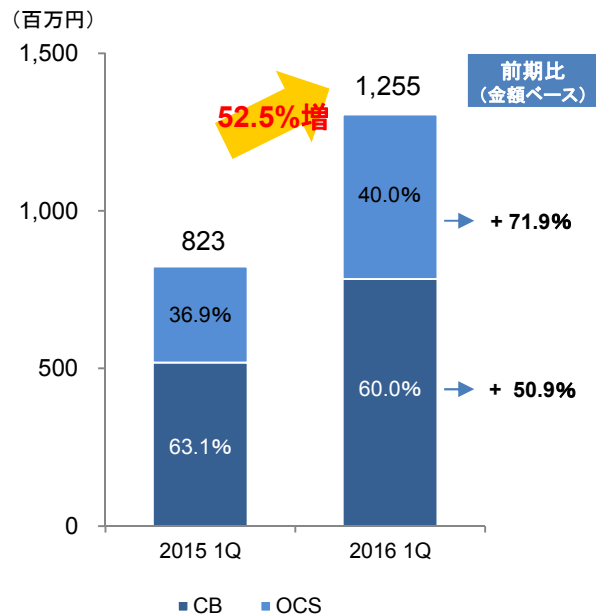
※PV=Pharmacovigilanceの略(医薬品安全性監視)
 医薬品の副作用などの安全性情報を的確かつ迅速に収集・分析する業務

セールス&マーケティング事業

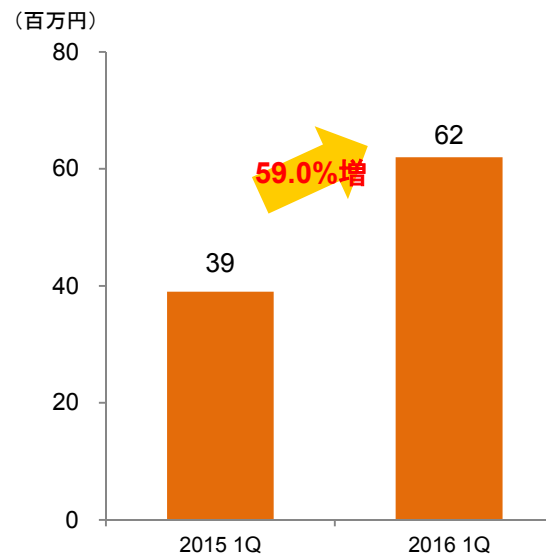
<分野別売上高・構成比と在籍数>

- CB:百貨店との直接取引増加、量販店の大口契約獲得により売上高拡大
- OCS:ファクトリー事業の物流分野との連携強化により軽作業系の在籍が大幅増加

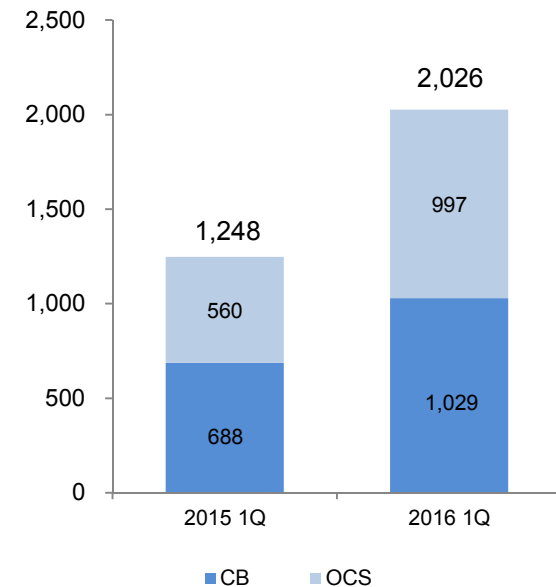
◆ 業種別売上高と売上高構成比(%)



◆ 営業利益



◆ 在籍数の推移(3ヶ月平均)



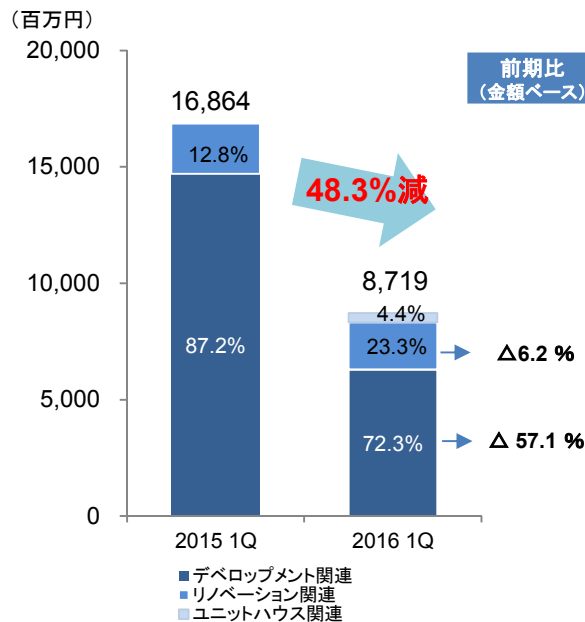
※在籍は3か月平均
 ※在籍数は現業社員のみ数字

不動産ビジネス

<業態別売上高・構成比と供給・未引渡戸数状況>

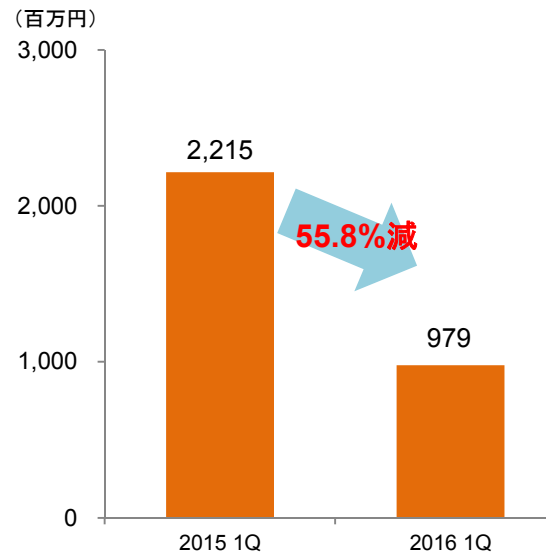
- デベロップメント関連: マンション分譲に加え、宅地、事業用地ともに順調に引渡し
- リノベーション関連: 繁忙期(1月~3月)により計画を上回り堅調に売上拡大
- ユニットハウス関連: 事業基盤整備に注力

◆ 業種別売上高と売上高構成比(%)

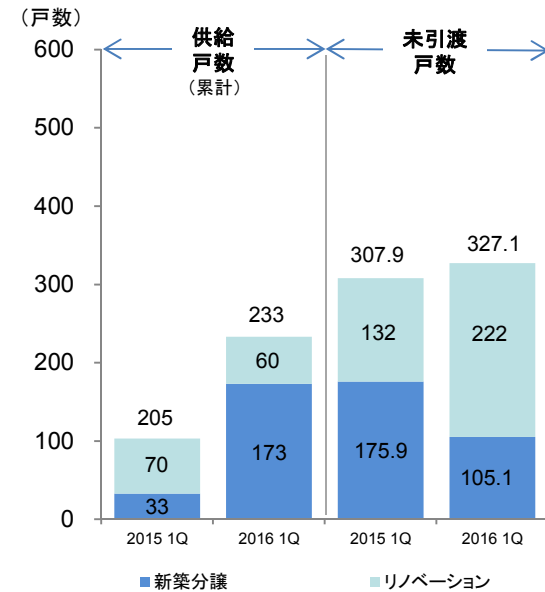


※ユニットハウス関連は、(株)オオマチワールド子会社化に伴い、2015 4Qより新設

◆ 営業利益



◆ 供給戸数と未引渡し戸数



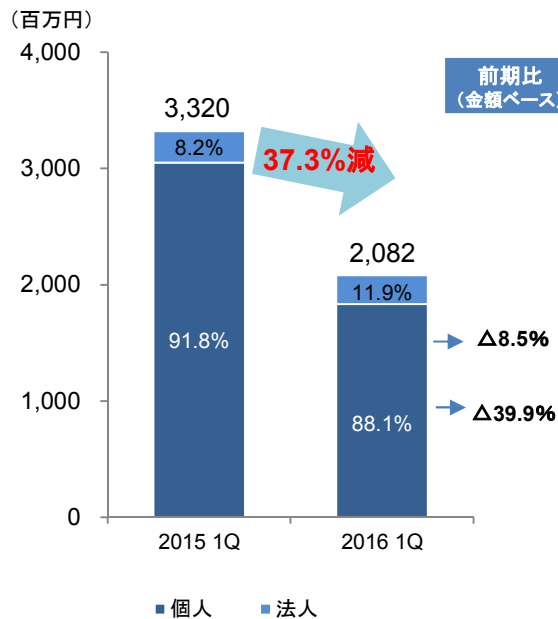
※供給は販売開始時点で計上、未引渡し戸数は契約済みも含むJV案件については、按分した戸数で数値作成

情報通信ビジネス

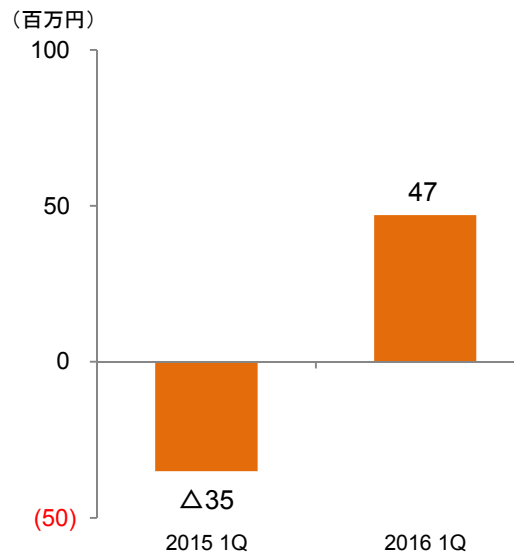
<売上高と店舗数推移>

- 投資一巡し、第1四半期で黒字に転換を実現
- 優良店舗網構築のため利便性の高い場所に店舗を移転および新規出店し、豊富なホスピタリティの高い人材を育成

◆ 仕向け別売上高



◆ 営業利益



《豊富な商材ラインナップ》

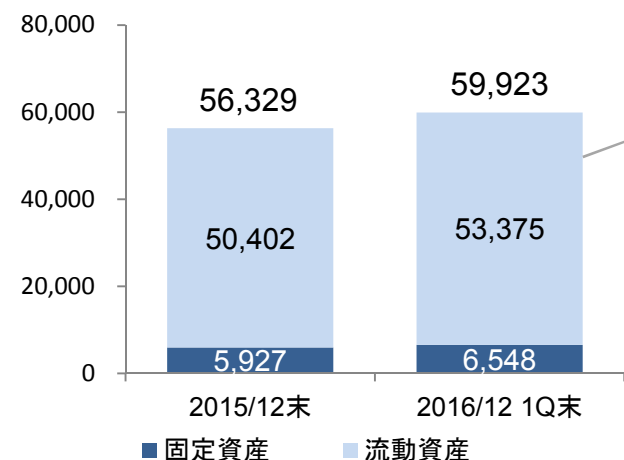




財政状態 B/S

● 今期販売中の仕掛販売用不動産が増加

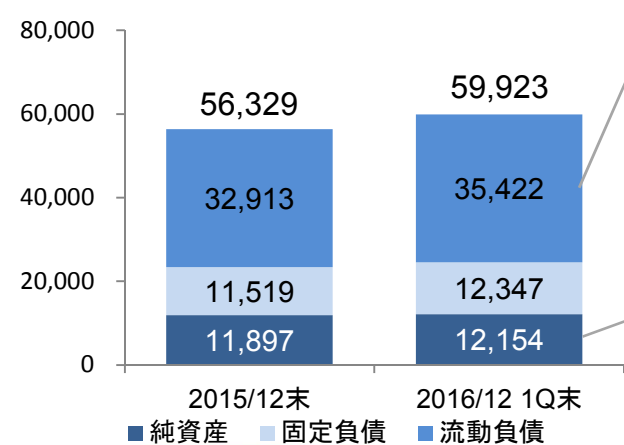
(百万円) 資産合計



流動資産 53,375(+2,972)

・仕掛販売用不動産の増加額 4,499百万円

(百万円) 負債純資産合計



流動負債 35,422(+2,508)

・短期借入金の増加額※ 3,655百万円
 ※販売用不動産の購入資金

純資産 12,154(+256)

・利益剰余金の増加額 251百万円



Ⅱ. 2016年12月期 業績予想

2016年12月期 通期業績予想サマリー



- 売上高、各利益ともに過去最高を達成の計画
- 経常利益に対する当期純利益の減少要因は、税制優遇が終了した為

単位:百万円、%	2015/12 実績	2016/12 予想※	対前期比	
			増減額	増減率
売上高	87,984	100,111	12,127	13.8
営業利益	5,137	6,275	1,138	22.2
経常利益	5,133	6,153	1,019	19.9
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,810	3,814	3	0.1
一株当たり利益(円)	228.05	228.27	0.2	0.1
一株当たり配当金(円)	45.7	68.5	22.8	49.9

※2016年2月3日発表

セグメント別 通期業績予想



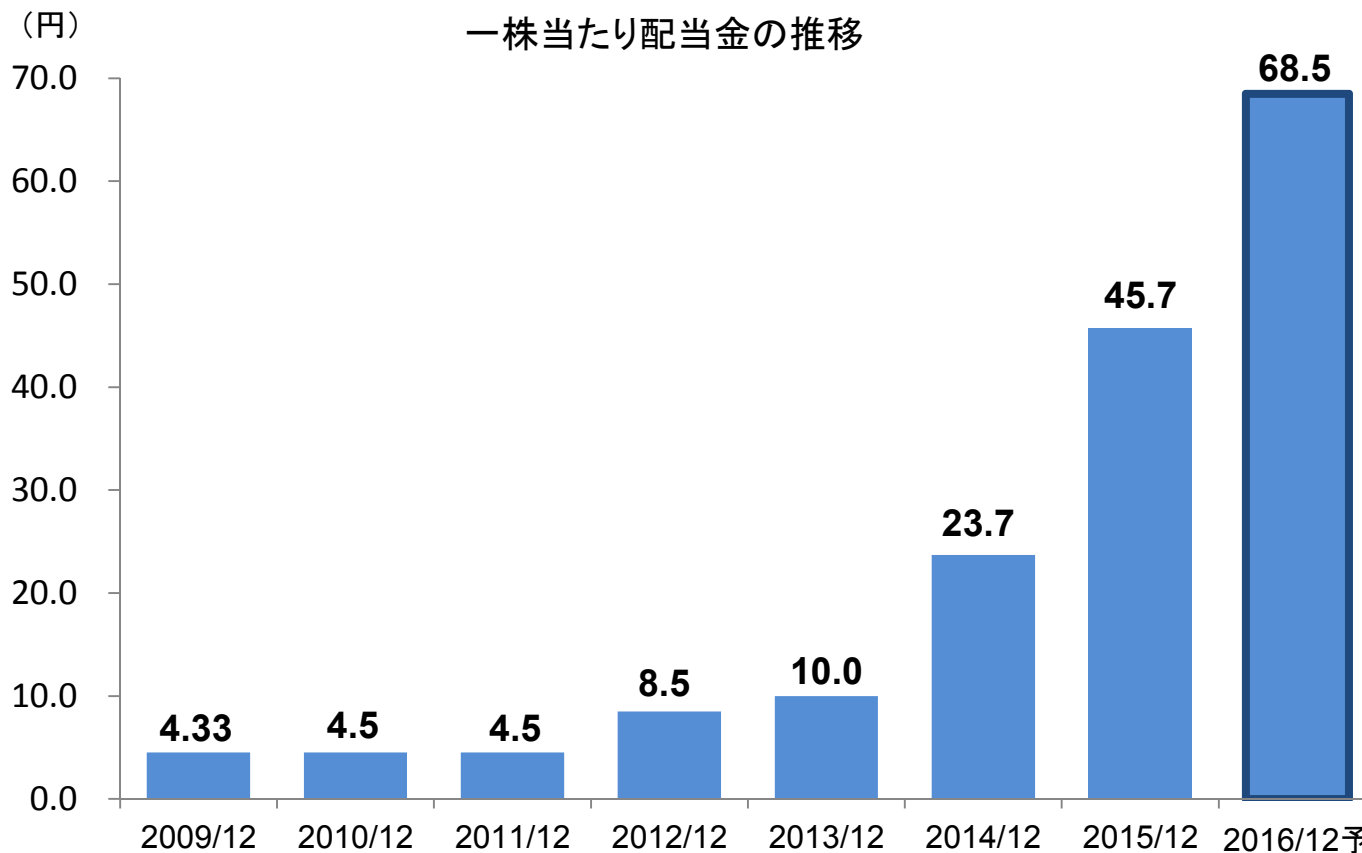
単位:百万円、%			2015/12 実績	2016/12 予想※	前期比	
					増減額	増減率
人材・教育 ビジネス	ファクトリー事業	売上高	26,910	32,571	5,661	21.0
		セグメント利益	1,801	2,316	515	28.6
		利益率	6.7%	7.1%	—	—
	テクノ事業	売上高	9,547	10,699	1,152	12.1
		セグメント利益	989	952	△36	△3.7
		利益率	10.4%	8.9%	—	—
R & D 事業	売上高	4,755	5,650	894	18.8	
	セグメント利益	518	565	47	9.1	
	利益率	10.9%	10.0%	—	—	
セールス&マーケティング 事業	売上高	3,972	5,525	1,552	39.1	
	セグメント利益	218	296	77	35.5	
	利益率	5.5%	5.4%	—	—	
その他	売上高	491	547	56	11.4	
	セグメント利益	15	26	10	70.3	
	利益率	3.2%	4.8%	—	—	
不動産 ビジネス	不動産事業	売上高	31,785	37,092	5,307	16.7
セグメント利益		3,061	3,921	860	28.1	
利益率		9.6%	10.6%	—	—	
情報通信 ビジネス	情報通信事業	売上高	10,522	8,056	△2,466	△23.4
セグメント利益		4	200	195	4,054.5	
利益率		0.0%	2.5%	—	—	
合 計	売上高	87,984	100,111	12,127	13.8	
	消去又は全社	△1,472	△2,003	—	—	
	営業利益	5,137	6,275	1,138	22.2	
	営業利益率	5.8%	6.3%	—	—	

※2016年2月3日発表

ものづくり分野については、業種によって減産等の情報も報道されていますが、
当社は業種分散によるリスクヘッジと、トップ企業として顧客と構築した信頼によって事業基盤が安定し
ていますので、業績に大きな影響はないと捉えております。



2016年度より配当性向30%を目標に



※業績予想及び配当予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。



平成28年4月14日より熊本県周辺で断続的に発生している地震により被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

当社は、地震の発生直後からグループの拠点及び社員、取引先と連携し、被災状況の把握をしながら、当社としてできる限りの支援を進めております。

当社は東日本大震災以降、被災者雇用と被災者支援を行っており、その経験から熊本県でも今後様々な対策、対応、支援を進める必要があると考えております。

これからも熊本県の復興に向け、九州に本社を置く企業として、責任を持って被災者支援活動を行ってまいります。



株式会社ワールドホールディングス

経営管理本部 広報IR室 津田 由佳理

TEL 03-3433-6005

E-MAIL irinfo@world-hd.co.jp

URL <http://www.world-hd.co.jp/>

本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。
また、本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点での弊社の判断であり、その報の正確性を保証するものではなく、今後、予告なしに変更される事があります。
万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。